



實性

平成二十七年 第四号 秋彼岸発行

秋のお彼岸のご案内

古代においては、川を渡るには、橋を架けることも、船で渡るにせよ、泳いで渡るにせよ、川を隔てた「向こう岸」を知ることは難しい「別の世界」だったようです。

仏教では、私たちの住む迷いの多い世界を「川のこちら側」との意味で「此岸（しがん）」と呼び、迷いを離れた悟りの世界を「向こう岸」つまり「彼岸（ひがん）」と呼んだのです。そして、川を渡り「向こう岸」へ到達する「到彼岸（とうひがん）」の手段として示されたのが「六波羅蜜」です。

「六波羅蜜」とは、

- 一、布施（ふせ） 施しをすること
- 一、持戒（じかい） 戒めを守ること
- 一、忍辱（にんにく） 忍び耐えること
- 一、精進（しょうじん） 励み努力すること
- 一、禅定（ぜんじょう） 心を静めること

何事も極端に偏らない「中道」という仏教の基本の考え方があります。

お日様が真西に沈む春分・秋分の日、つまり「お中日」の後三日ずつにこの「六波羅蜜」を配したのが「お彼岸」です。自分を見つめ、ご先祖様に感謝の手を合わせましょう。

彼岸会法要

お中日

●九月二十三日（水）午前十一時より

お彼岸入り 九月二十日（日）

お彼岸中日 九月二十三日（水）

お彼岸明け 九月二十六日（土）

※お彼岸のお塔婆はお早めにお申込ください。



七月、八月、両孟蘭盆会法要が厳修されました。
七月十二日(日)百名、八月十三日(水)二百三十名様のご参加をいただきました。

孟蘭盆会法要では、「絵で見る日常勤行式」を檀信徒の皆様とご一緒にお唱えいたしました。今回は、お経の本文である「四誓偈」についてお話しいたしました。

【四誓偈】(しせいげ)

浄土宗の根本經典は「浄土三部經」という三つのお経です。

一、無量壽經

二、觀無量壽經

三、阿彌陀經

「無量壽經」は、阿彌陀仏が、かつて、法蔵菩薩であられたとき、四十八の本願をたてられ、それらを成就して阿彌陀仏となられたことを説き、人々がその本願力を信じて、仏の名号を聞き飲んで、一声十声でもその名を唱えれば極楽往生することができ、仏になることができると、説かれたものです。

「四誓偈」は、「無量壽經」正宗文の中の偈文です。

「四誓偈」では、法蔵菩薩が私共を救うことができなければ、仏(如来)にはならないという四つの誓いが書かれた部分です。



その四つとは

一、私は、俗世を超える四十八願をたて、必ずや誓願を達成して最高の悟りを開きます。これを達成できなかつたら、私は誓つて仏にはなりません。

一、私は永遠に大慈悲を施す者となり、貧苦にあえぐ人々を救います。これをできなかつたら、私は誓つて仏にはなりません。

一、私が悟りを開き、私の名声が、国を超えて隅から隅まで聞かれるようにならないなら、私は誓つて仏になりません。

一、何者にも妨げられない仏様の智慧の光が全てを照らすように、私の智慧の力もそれと等しくありたいと願います。

この「四誓偈」は最も多く毎日唱えるお経です。

また、「観無量寿経」とは

王舎城の悲劇から始まり、マダカ国の王は、そのかされた王子に幽閉され、飲食物を運んでた王妃も幽閉され、夫人は、積尊に祈り、積尊は夫人の頼みを受けて多く仏の世界を見せ、夫人は、阿弥陀仏の極楽浄土に生まれたいと願い、浄土に生まれる方法として、三福十六観を積尊が説かれたお経です。

また、「阿弥陀経」とは

極楽浄土の美しい様子を説き、一心に阿弥陀仏の名号「南無阿弥陀仏」を唱えれば、必ず、往生できると説かれたお経です。



本年も多数の檀信徒の方々にご参加いただき誠にありがとうございます。
ございました。

ご参加のお家には「野菜のボールペン」今回は「とうもろこし」「枝豆」をお渡ししました。

お子様には、好評の「ハト型風船」を差し上げました。
来年度も、大勢の方々にご参加いただきたく存じます。

お墓参り

ご本尊様のおひきもと、ご本尊様に守られて皆様方のお墓がございます。

先ずは、山門をくぐる時に合掌一礼し、本尊様前で合掌一礼して御徳を頂き、その功德をお墓に振り向けます。これを回向と申します。

墓石を清め・花・香・水を差し上げ、お供物を供えます。

お菓子・飲み物は、カラスや猫等が荒らしますので必ずお持ち帰りください。また、古く朽ち果てたお塔婆は、はずして本堂縁の下の塔婆入れに置いてください。

今、こうしてお墓参りの出来る喜びの一端を、ご縁の無いお墓「無縁塔」にお参りください。六地藏尊、子育て水子地藏尊、開山上人墓碑、馬頭観世音菩薩にも、手を合わせたいものです。

お帰りには、またご本尊様に手を合わせます。故にこの場所を「御拝」と申します。



實性寺の
彼岸花
ひがんばんな

お彼岸の頃、開花するので彼岸花と呼ばれています。またマンジュシャゲ（曼珠沙華）とも呼ばれ梵語「赤い花・天上の花」の意味でおめでたい兆しとされています。

慶弔便り

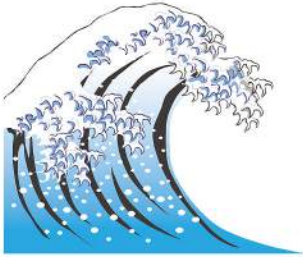
【弔の部】

六月 十七日	長島 英男殿	妻君 喜代子様	七十一歳
六月 三十日	石井 賢二殿	子息君 典一様	三十六歳
八月 十日	大澤 初子殿	夫君 隆雄様	七十二歳



新檀家ご紹介

南花畑	増田 耕三 殿
花畑	安田 行雄 殿



境内の



①

アメリカ白蓮



大賀蓮



境内の



②

サギ草



酔妃蓮



☆ご法要等のお塔婆を建立される方は、遅くとも十日前迄にお申し込み下さい。お電話よりファックスの方が正確ですのでご利用下さい。

ファックス番号 03(3883) 3227

振替口座 00190-6-258873

※振込用紙をご入用の方はお申し出下さい。

〒121-0061 東京都足立区花畑三十七ー十八
電話 03(3883) 8866

浄土宗 實性寺

<http://www.jisyoji.com>

